

審議会では、30人の委員が5人1組のグループに分かれ、「30年後のいしかりに向けての想い」や「いしかりの将来に向けて大切なこと」などのテーマについて活発に意見を出し合いました。それをベースに描き出されたのが、総合計画の“目指すまちの姿”です。



川浪香織さんも策定に携わった第5期石狩市総合計画。「いしかりまちづくり本」として11月9日(月)から市役所などで配布されます。皆さんもぜひ手に取って、まちの未来を一緒に考えてみませんか！
→詳しくは7ページをご覧ください！



第5期石狩市総合計画 2015—2022

石狩市総合計画策定審議会委員として まちを見つめ、未来に思いを馳せた2年間

川 浪香織さんは、石狩で生まれ育った生粋の石狩っ子。現在、幼稚園の先生として市内で働いています。その川浪さんが石狩市総合計画を策定する審議会委員になったのは、藤女子大学花川キャンパスに通っていた3年生のときで、ゼミの教授に勧められたのがきっかけでした。

審議会が行われたのは、平成25年から27年にかけて。有識者や産業団体の代表、厚田や浜益の地域協議会メンバー、公募により参画する市民などに交じってまちの未来を考えるということに、はじめは戸惑った川浪さんも、グループトークの打ち解けた雰囲気の中で徐々に「バスの乗り継ぎが大変。もっと便利になったらいいですよね」など、現役学生としての思いを語り始めたといいます。

いろんなことも知りました。「同じまちに暮らす高齢者の方や子育て中の方がこんなことを思っているのか。審議会に参加するまで、考えたこともありませんでした」。

9回の審議会を重ね、つくられた新総合計画には、委員たちの想いもつづられています。そこには川浪さんのメッセージ『石狩市の良さをみんなに伝えよう！』もありました。

「私自身、石狩をもっと知って、誇りを持って暮らしていきたい。総合計画づくりに参加して本当にそう思いました。先日、車で厚田と浜益に行ったんですが、気持ちのいい所ですよ！ 私のこの感激を子どもたちにも伝えて、誇りや愛着を持ってこのまちに暮らしてもらえたら」と。

計画を動かす力は、こんなところにあるのかもしれない。



「このまちに住み続けたい」と思える 魅力あるまちであるために

私たちの「石狩PRIDE」って何だろう？ 30年後も今のまちの魅力を持続するにはどうしたらいいのかな？ 新計画を手に家族みんなで考えてみませんか？

石狩 PRIDE

絆

環境

新現役世代[※]を中心とした地域での子育て支援によって、いろんな特技を持った**市民の活躍の場**があります

特技を生かして
子育て支援に貢献

OK!?

はい

子どもたちに
読み聞かせ

地域の多世代が集まって交流したり
シェアハウス[※]などで**支えあって**
暮らしています

地域との
関わりが深まり
幸せな暮らしに

集まる場所が
あって安心

買い物やスポーツなど、
外出の機会も多くて、市民が
健康にいきいきと暮らしています

みんな元気に
健康づくり

歩いて暮らせる
まちは
毎日が楽しい

地域のエネルギーが
市民の生活を支えて
います

eco

魅力や資源が
たくさん！

環境にやさしい
市民の
ライフスタイル

環境やエネルギーに対する
市民の意識が高く**環境負荷[※]**の
少ない暮らしが広がっています

いしかりの自然や産業など様々な
資源が有効に活用され
市民が豊かに暮らしています

12

第5期 総合計画は 「市民と行政の約束」



企画課 池内 直人

まちには防災計画や福祉計画、教育計画など、さまざまな計画があります。その中でこの計画は、石狩市がどんなまちを目指し、どんなまちづくりを行うかを総合的に考えるための「道しるべ」となるものです。

新総合計画の一番の特徴は「たくさんの方の市民の皆さんに参画してもらい、作り上げた計画である」ということです。

計画づくりは平成25年4月から始まり、約2年半をかけて行われました。30年後、「こんなまちになったらいいな」「こんなまちをみんなで作りたいな」といったことを、審議会や、中学校・高校、市民カレッジ、石狩青年会議所、市民アンケートなど、できるだけ多くの所で皆さんの意見を求めています。その数2230人！ 本当によく多くの方に協力いただきました。

なぜ、これほど市民の皆さんの声にこだわったのかといえば、それは皆さんに「まちづくりの主役」として参画していただきたいからです。

私たちは新計画を「市民と行政の約束」と位置付け、これまで以上に「市民と行政がパートナーとなり、ともに支え合う」関係を大切に考えていきます。まちづくりに市民の皆さんにも参画してもらうことで、「もっといしかりを好きになつてほしい」という願いからでした。

新総合計画では、市民の皆さんから寄せられた「30年後、こんなまちになったらいいな」に関する意見を、分かりやすくイラストで再現しました。



市民の皆さんには、この新計画からまちづくりの楽しさや、やりがいを感じ、まちへの誇りを持ってもらえたらと思っています。皆さんが参画できる仕組みをつくっていきたいと思いますので、これから私たちと一緒にまちづくりをしてみませんか！

詳しくは6ページで！



みんなでつくる、 こんなまち・いしかり

30年後、「こんなまちになったらいいな」、「こんなまちをみんなでつくりたいな」など、総合計画策定中にいただいた市民の意見をまとめてみました。



※1 6次産業化：第1次産業である農林水産業が、農林水産物の生産にとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第2次産業や第3次産業にまで踏み込むこと
※2 新時代：新時代（分科会）の中で、知識や技術、経験を有する高齢者を「高齢者」ではなく、「新時代」と呼ぶこととした
※3 シェアハウス：一つの家を複数の人と共有して暮らすこと。賃貸住居に比べれば安く、同居人との交流が自然と促されるというメリットがある
※4 環境負荷：人の活動が、人を取巻く環境に対して各種の干渉を生じ、自然に負荷を生じさせること

11

目指すのは 「石狩PRIDE」の醸成

新計画では、前計画からの基本理念である「自立・協働・共生」を引き継ぎながら、中でも「協働」を推し進めるため、さらに二歩踏み込んで、「石狩PRIDE」の醸成を図ることをテーマに掲げています。「石狩PRIDE」とは、まちへの愛着や誇りのこと。まちづくりへの協働作業を通し、市民の皆さんに石狩をもっと好きになって、まちに愛着や誇りをもってもらうことが、目指すまちの姿の実現につながると私たちは考えています。

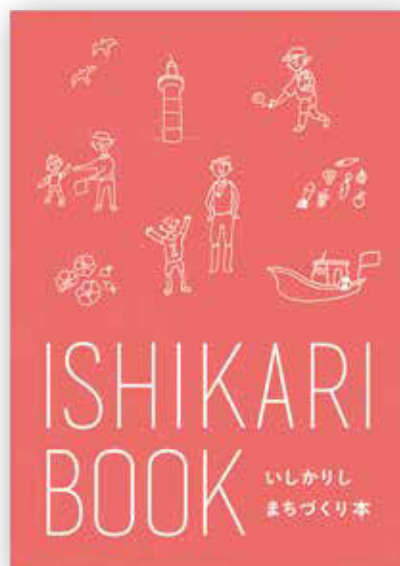
それは、小さな取り組みから始まるかもしれません。初めは一人、二人が気づいた石狩の魅力が、「いしかりイイネ！」と共感する仲間を集め、やりがいや責任感、自発性を伴いながら、次の楽しみや実践へと広がっていくことを新計画では目指しています。その広がるイメージを、戦略目標ごとにイラストを使ったサイクル図で表わしました。



【例】戦略目標2で描かれた「サイクル図」

市民の声を反映した新総合計画の特徴

第5期総合計画「いしかりしまちづくり本」では、まちづくりのワクワク感が共有できます。



第5期総合計画は30年先を見据えた計画

新総合計画は、まちが抱える現状を紹介しながら未来を考える“道しるべ”です。

30年後の未来、「目指すまちの姿」はどんなものか？ その実現へ向け、まちづくりの方向性を市民と行政が共有し、できることは何かを考えます。



戦略目標1 新現役世代がいしかりで活躍する

新現役世代とは、知識や技能、経験を活かして活躍する高齢者のこと。審議会の中で決まった新たな呼称です。その新現役世代を「人財」と捉え、生涯健康で、地域を元気にする中核として活躍してもらえるようなまちを目指します。

戦略目標2 いしかりの子育て力をさらに発揮する

地域全体で、子育て家庭を支えながら、子どもが安全かつ安心して学び、健やかに育つことができるまちを目指します。

戦略目標3 いしかりの資源からモノやしごとを創り出す

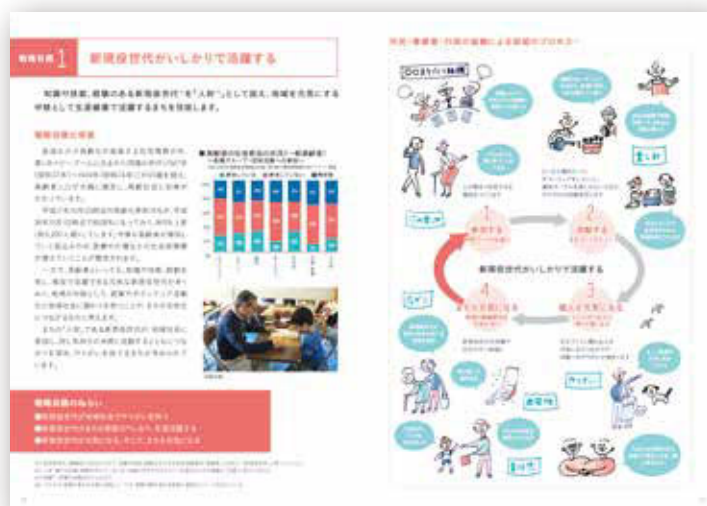
まちの資源や魅力、石狩湾新港地域が持つ可能性をさらに高め、新ブランドや産業を生み出しながら、地域経済が活性化できるまちを目指します。

戦略目標4 いろんないしかりの顔をつくる

まちの魅力や地域の特徴を市民自ら発見すること、その発見を自分たちの手で「いしかりの顔」へと育てていくこと。それが「わがまちの自慢」へとつながっていくまちを目指します。

5つの戦略目標

新総合計画を動かしていくためには、市民の理解と協働は欠かせません。中でも、特に重点的に市民と取り組んでいきたいことを「5つの戦略目標」として掲げています。



戦略目標5 いしかりが誇る人や文化を育てる

市民一人一人が健康に生き生きと暮らすために欠くことのできない、まちへの誇りや愛着を醸成し、世界に羽ばたく人材や新しい文化が育つまちを目指します。

新計画でまちづくりをどう変えていくのか？

新しい総合計画は、石狩のまちづくりや暮らしをどう変えていくのか？ これについて私たちは、次のように考えています。

〈総合計画に基づくまちづくりを通じて、市民と行政がパートナーとなり、ともに取り組む活動を増やしていきたい〉

まちづくりは、市民だけで行うことは難しいですし、行政だけで行うものでもありません。市民と行政がパートナーとなり、人々がもつ連携しながら横断的な活動を通してまちづくりに取り組むことが大切です。

やがてその取り組みがさらに多くの市民や地域に広がり、人や組織、地域が成長していく——これが私たちの目指す「魅力あるまち・いしかりの姿」です。

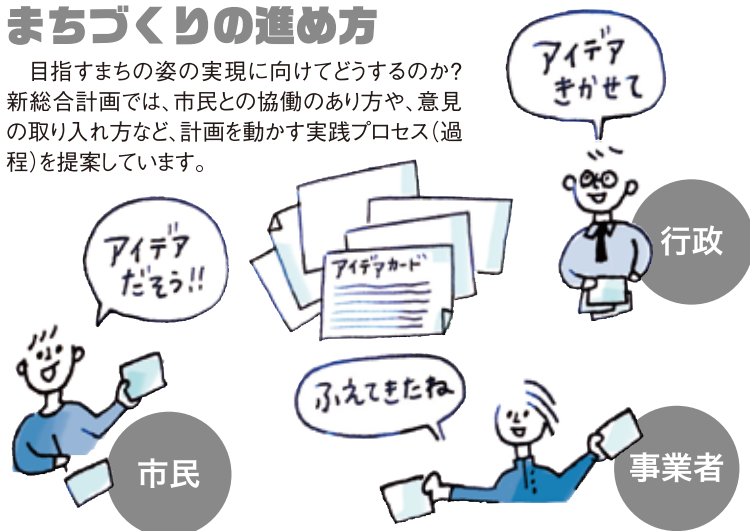
その意味で、市民と一緒につくったこの新計画は、すでに「魅力あるまち・いしかり」を体現した1冊といえるでしょう。

そんな新計画を、まずは市民の皆さんに手にしていただくこと、それからページをめくって「わがまちにはこんな魅力があったのか」とか、「これからのまちづくりにはこんなアイデアもあるんだな」など感じてもらうこと、そこから「まちづくりって楽しそう」「私にも何かできるかもしれない」と皆さんの気持ちを動かすこと。それが、新計画の使命と私たちは考えています。



まちづくりの進め方

目指すまちの姿の実現に向けてどうするのか？
新総合計画では、市民との協働のあり方や、意見の取り入れ方など、計画を動かす実践プロセス（過程）を提案しています。



キーワードは「石狩PRIDE」

計画では、まちへの愛着や誇り＝「石狩PRIDE」を持つことこそ、未来のまちづくりへの「創造」につながり、市民同士の「絆」を深め、幸せな暮らしを支える「環境」の醸成につながると考えました。

だから、市民一人一人が石狩の魅力に気づくことが大切なんですね。



審議会委員から市民へのメッセージ

計画策定にたずさわった審議会委員から、市民に想いを伝えるページを設けました。計画書としても初めての試みです。

実際に何が書かれてあるのかは、計画書を手に取ってぜひご覧ください！皆さんも共感できるメッセージがきっとあるはずです。



見やすさ、
分かりやすさ、
親しみやすさを求めて



企画課 青木 宏美

これからどんなまちを目指し、どのようにまちづくりを進めていくのか、新計画はその道しるべですので、「いしかりし まちづくり本」では市民の皆さんの多くの意見や想いを、より見やすく分かりやすくまとめることを第一に考え、文字よりも図表やイラストを重視し、表現しました。

11月9日(月)から市役所1階総合案内や、厚田・浜益支所地域振興課に設置するほか、市HPでもご覧いただけます。

なお、私たちが講師となつて出前講座も行いますので、ぜひお気軽にご連絡ください。



▲市役所1階の総合案内

問合せ 企画課 ☎ 72・3161
http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/kikaku/1289.html